

令和4（2022）年度 学校と地域の連携推進セミナー③ 実施報告

実施日：令和4年8月9日（火）

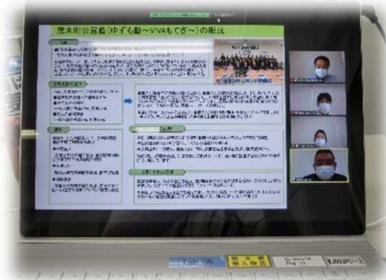
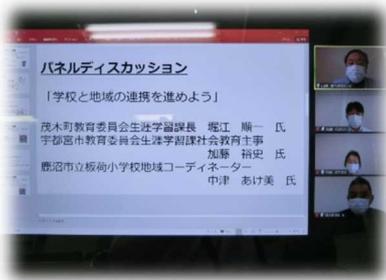
複雑化、多様化が進む社会の中で、子どもたちにこれからの時代を生き抜く力を育むためには、学校と地域が連携して、子どもたちの成長を支える基盤をつくる必要があります。この視点を意識して受講者は講話を聴きました。

第3回は学校と地域の連携を推進するための方策や仕組みづくりなどを学びました。オンライン（Zoom）で実施し、10名の方が参加しました。

- パネルディスカッション「学校と地域の連携を進めよう」、研究協議「連携を進め、活動を充実させよう」
茂木町教育委員会事務局生涯学習課長 堀江 順一 氏
宇都宮市教育委員会事務局生涯学習課社会教育主事 加藤 裕史 氏
鹿沼市立板荷小学校地域コーディネーター 中津あけ美 氏

最初に、パネリストからそれぞれの取組について説明がありました。茂木町は「公営塾」、宇都宮市は「地域未来塾」、板荷小学校は「サマースクール」とそれぞれ特徴があり、明確な目的を持って実施していることが分かりました。その後、コーディネーターから取組を行う上で困難だったことや取組を継続・発展するための仕組みづくりに必要なことについて質問があり、それぞれの回答がそのまま受講者の学びを深める内容となっていました。

研究協議では、パネルディスカッションの内容を踏まえた話し合いが行われました。それぞれの取組を参考とし、学校と地域の連携を推進・充実させる方法や押さえておきたいポイントなどについて、受講者は熱心に意見交換をしていました。



☆受講者の声（アンケートから）

- ・学校と地域の連携には、双方の理解と人材の確保が課題となっていることを知りました。今回の研修を契機とし、私自身考えてみたいと思いました。
- ・「公営塾」という存在を初めて知りました。町から高校がなくならないようにする取組であると同時に、講師として参加している地域おこし協力隊員が任期後も町に残ることができる仕組みを考えているなど、素晴らしく思いました。また、学校と地域の連携を充実させ、新しいやり方などを実行するためには、学校と地域の理解を得る必要があることや双方の情報の共有をしっかりと行うことの重要性などを学びました。
- ・学校と地域を取り巻く状況が変化していること、特に小規模校では少子化が重大な課題となっていることなどを知りました。子どもたちがより良い環境で学び、成長するためにはたくさんの活動が必要です。子どもたちにとって大切なことをもう一度考えてみたいと思いました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp

